

高校生レストラン 「まごの店」



高校生レストラン「まごの店」



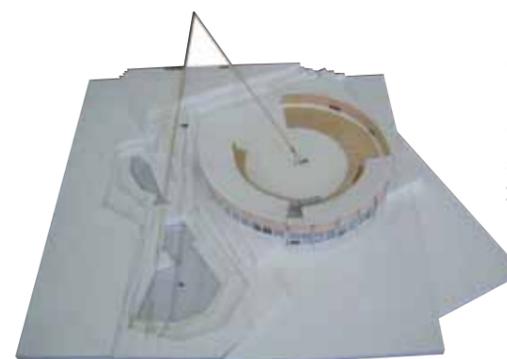
「まごの店」のスタッフ

食の道を目指す高校生の夢を乗せた高校生レストラン「まごの店」。マスコミにも取り上げられ、全国的な話題になっています。新たに「せんぱいの店」もできて、ますます地域を元気づけています。



百五銀行 まちの宝創造アドバイザー
皇學館大学現代日本社会学部 特命教授
(元多気町まちの宝創造特命監)

岸川 政之さん



高校生の設計コンペ優勝作品

めるほど、生徒や指導者の村林先生に惚れていったのです。
そして伊勢イモ入りうどんの開発など、先生や生徒と話し合ったことで実現できることは全て実現してきました。
その中で、高校でできないことが二つあるという話を先生から聞きました。一つは接客、もう一つはコスト管理です。そこで、お店をやったらどうかという話になり、現在の「まごの店」ができあがったのです。「まごの店」は「多気町五柱池ふるさと村」にある相可高校校食物調理科の調理実習施設で、学校が休みの土日祝日などにクラブ活動の一環として運営されています。行列のできる店として人気を呼び、地域の人もこの高校生たちの頑張りに感動し、大きな勇気をもたらしています。
3 全て高校生のアイデアで
最初の「まごの店」は、平成14年10月にオープンし、約20㎡の小さなお店でしたが、生徒たちの明るく活発な取り組みが、高齢化などの進む多気町に明るい話題を提供し、人々を勇気づけてくれました。そして、「フランス料理ならフルコース、和食なら会席料理からふ

1 地元の農産物を生かす

私の住む三重県多気町は、人口1万5千人余りの小さな町です。「多気」という名前にも「食べ物のたくさん取れるところ」という意味があると聞いています。

平成12年4月に多気町農林商工課の農業振興係長になり、農業振興をするため町内の認定農業者35人にスポットを当てるイベントを考えました。認定農業者が作っている野菜や果樹などの生産物にスポットを当てることで、生産者の方々の浮かび上がらせようと企画しました。

平成14年の2月に「おいしい多気町まるかじりフェスティバル」と銘打ち、午前中は有名な料理の先生を県外からお招きし、多気町原産で特産物の伊勢イモをテーマに料理トーク&調理ライブショーを行い、お昼に相可高校食物調理科の協力を得て認定農業者から提供いただいた大量の農産物での試食会を開催しました。現在の相可高校食物調理科は、高校生レストラン「まごの店」などの活動などで新聞やテレビにもたびたび登場



レストラン「まごの店」の営業風景

ぐ料理までこなす彼らの技術をもっと発揮できる店をつくってあげたい」と現在の新しい店の仕掛けを始めました。建築を学ぶ県内の高校生に設計コンペを依頼し、コンセプトは、「料理家を目指す高校生の夢を、建築家を目指す高校生が形にする!」その夢を多気町やふるさと村といった地域が応援する!としました。
総事業費約9千万円をかけ、平成17年2月に建築を学ぶ高校生が設計した現在の「まごの店」がオープンしました。
新しい「まごの店」では、小学校の親子を対象とした「親子ふれ

し、日本中に明るい話題を提供し続けています。

2 相可高校の生徒との出会い

平成14年2月にこのイベントを行うまで私は、相可高校をよく知りませんでした。相可高校は県立高校であり、多気町とは、ほとんど付き合いがなかったのが実情でした。認定農業者の方も含めて総勢250人近くが参加したフェスティバルは、楽しい雰囲気でもありました。昼の試食会では、スパーやデパ地下の試食会では、イメージしてお願したのですが、出てきた料理は30種類もあり、ホテルのディナーバイキングのようで、そのまま結婚式もできそうでした。私は感動し、その後、相可高校へ放課後の時間帯に週4日は通いつ

あいマナー教室”や”地元食材を生かした料理教室”、”和洋のコース料理の提案”など、地域の人々や各種団体などを巻き込んだの食育に関する数々の取り組みを行っており、多くのマスコミにも取り上げられています。

4 「せんぱいの店」も誕生

さらに平成20年9月には、村林先生と私の最終的な目標でもあった、相可高校食物調理科卒業生の受け皿となる(株)相可フードネット「せんぱいの店」が、惣菜とお弁当の店としてオープンし、「まごの店」卒業生が中心となって活躍しています。

今後とも、地域とともに発展していく取り組みを続けていきたいと考えています。



「せんぱいの店」



南伊勢町 「南伊勢SBP」

ソーシャルビジネスプロジェクト



SBP(ソーシャルビジネスプロジェクト)とは、地域の課題を人、モノ、歴史、自然、文化、産業などといった地域資源を活用しながら解決していく活動のことを指す。南伊勢町では地元の高校生が「自分たちの手で町を元気にしたい」をキーワードに、地域づくりやビジネスの創出に取り組んでいる。



高校生発! 南伊勢SBP発足

度会郡南伊勢町は三重県の南東に位置し、国立公園にも指定されている美しいリアス式海岸が広がっている。海と山の織りなす風景は美しく豊かで、農林漁業の二次産業が盛んな町として知られている。

南伊勢町は2005年に南勢町と南島町が合併して誕生したが、人口は現在1万4千人。県内でも最も過疎と高齢化が進む地域の二つで、20年後には人口が半減するといわれている。

南伊勢SBPの発端は、

あり、金型製作を企業に依頼できる予算はなかった。そこで、岸川氏のアドバイスをあり、金型製作の技術を学ぶ沖繩の工業高校に金型の試作を依頼できることになった。生徒たちは沖繩を訪問し、工業高校の生徒と交流する中で自分たちの取り組みや思いを伝え、金型製作のコラボレーションが実現したのである。自分たちの手で町内のイベント



南伊勢町マスコットキャラクター「たいみー」



たいみー焼き



試食会の様子

工業高校との金型試作の打ち合わせ

でたいみー焼きの試食会を開催するまでにこぎつけた。結果は1時間半待ちの行列ができるほど大盛況であった。

3つ目は、これまでのプロジェクトで収集した情報や事業者とのつながりをフル活用して、数ある南伊勢町の特産品の中から全国に発信したい商品を厳選し、一箱に詰め合せてギフトとして販売する「セレクトギフトプロジェクト」。売上はたいみー焼きの金型製作の費用にあてることとした。セレクトギフトは単純に「美味しい」や「珍しい」だけで選ぶのではなく、贈答用として採用できる品質であるか、商品パッケージや作り方、保存方法など細部に至るまで厳しい基準で生徒が審査を実施。審査をクリアした事業者への仕入れ交渉から、梱包するギフトボックスのデザイン、おすすめの食べ方を掲載したパンフレットやふるさとへの思いを綴った手作りレター作成、購入申し込みの受け付け、発送に至るまで全て生徒たちが行っている。一回目となった昨年のお歳暮用ギフトは「まず、

2011年に南伊勢高校南勢校舎の授業として行われた岸川政之氏(当時、多気町まちの宝創造特命監)によるキャリア講演であった。講演の内容は、岸川氏が仕掛けた多気町の高校生レストラン「まこの店」などを例にあげ、高校生による地域活性化についてだった。当時、南伊勢高校は生徒数の減少から廃校の危機にあったが、同じ高校生が頑張っている話に感動し、「自分達にもできることがあるのでは」という気持ち湧きあがった。生徒たちの思いは、教員や町役場そして地域の人たちをも巻き込んで、2013年4月から南伊勢SBPとして具体的な活動へと発展していく。

地域資源の活用に向けた 3つのプロジェクト

南伊勢SBPでは3つの取り組みを行っている。1つ目は「地域の宝探しプロジェクト」。「自分の町を知らずして、町を好きになることはない。町にはどんなものがあるのか」と、町を歩き回り、地域の宝を探す活動を開始。事業所や商店などを訪問し、取材内容を



販売も生徒たちで行う

生徒が厳選した「セレクトギフト」

身近な人に知ってもらいたい」と2014年11月に地元限定で販売。一箱3,500円、300個販売したところ、1か月で完売した。

新しいビジネスモデル として

「高校生発、地元ビジネス地域を盛り上げる」取り組みはたちまち大きな話題となり、7月には小泉進次郎内閣府大臣政務



「地域の宝探しプロジェクト」事業者訪問

まとめてみんなで発表しあった。これまで地域とのかかわりがほとんどなかった生徒たちにとって、事業者の当地域に対する熱い思いに触れることで、地域の価値に気づき、この町に誇りを持てるようになった。

2つ目は、「たいみー焼きプロジェクト」。地域の宝探しプロジェクトを通して、自分たちも南伊勢町らしいものを作りたいとの思いから、南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」の形をした「たいみー焼き」を作るプロジェクトが始まった。ここで問題となったのがたいみー焼きの金型をどうやって調達するかである。そもそも生徒数人の有志で始まったプロジェクトで

官が視察に訪れるなど各地から問い合わせや視察が殺到している。セレクトギフトは、2回目となった今夏のお中元も大好評だった。

南伊勢SBPは、生徒たちの地元愛を育てるだけでなく、地域の事業者にとっても全国への販路拡大が期待できる。若者にとって自分たちの住む地域に価値を見出し、自らの手でビジネスを作り出せば、外に出て働くのではなく、地域に残るという選択肢が生まれる。南伊勢SBPは高校生がこれまで気づいていなかった、既にそこにあるものやそこで暮らすひとという宝にスポットを当て、新しいビジネスを起こすという点において、全国で同じ問題を抱える地域のモデルになりうる。

2015年7月、百五銀行と百五経済研究所は、南伊勢町と地域活性化連携協力に関する協定を締結した。これからは南伊勢SBPを含む南伊勢町での取り組みがどのように展開していくのか、引き続き注目していきたい。